

## 入試状況レポート

2020年2月13日  
吉祥女子中学校  
渉外部部長 若杉晴彦

### 《全体》

過去2年の入試では入学者数が予想を上回り、クラスを増やす(6クラス→7クラス)ことが続いていた。今年は6クラス体制を維持するため、合格者総数は結果として前年より1クラス分減らした形となった。

模試の動向では第二志望者の多い第二回が大幅に応募者を増やしており、この回の入学者数の予測が大変難しかった。合格者に占める割合も、第二志望者と思われる受験生の方が高く、この日は第一志望者にとっては厳しい試験となった。

結果として、入学手続き者数は我々の予想を若干上回ったものの、6クラスは維持することになった。今年は追加合格を出すことなく、このまま今年の入学試験を終了した。

### 《第一回》2月1日 募集114名 応募581名 受験555名 合格206名 倍率2.7倍

昨年比で応募者数が96.7%、受験者数は97.2%で微減であったが、出席率は95.5%で昨年(95.0%)よりも高かった。合格最低点は340点満点中230点(67.6%)で、例年並の受験者層という手応えであった。

併願校は昨年同様、豊島岡と浦和明の星が多かった。また、青山・明治・中央との併願も総数で26名から50名へほぼ倍増した。この他、国立大学附属との併願も微増であったが、都立一貫校との併願は減少した。

合格ラインは、1点に集中した人数が多かったことから206名までを合格とした。

### 《第二回》2月2日 募集90名 応募959名 受験680名 合格208名 倍率3.3倍

第二回の応募者数959名は、昨年比106.7%。第一回で合格している141名を除いた実応募は818名(昨年734名)で、受験者数とともにすべて過去最高の人数となった。出席率は実応募者に対しては83.1%で、昨年の86.4%よりも低くなった。

この回の受験者の層はとても高く、各教科とも採点をしていてその高さを強く感じた。併願者を見ても、女子学院を筆頭に桜蔭・雙葉、早慶や豊島岡・筑波大附属が増加、今年は2日が日曜日ということで青山の併願者も18名いて、上位の受験生による激しい争いとなった。

合格最低点も340点満点中253点(74.4%)という、とても高い水準で合否判定を下すことになった。例年なら余裕で合格していた得点の場合でも、今年は不合格とせざるを得ない結果となった。

### 《第三回》2月4日 募集30名 応募603名 受験443名 合格43名 倍率10.3倍

応募者数は一昨年から595, 589, 603と600前後の数字が3年続いた。しかし、受験者は2007年度の517名に次いで2番目に多い人数となった。

既に第一回、第二回で合格している受験者86名を除いた実応募者数に対する出席率も今年は85.7%で、昨年の84.7%より1ポイント高かった。今年は出願最終日である2月3日の出願者が増えたため、これが応募者・受験者ともに増加した要因と思われる。

募集定員が30名ということで、第三回もレベルの高い争いとなった。合格者の最低点が340点満点中244点(71.8%)で、倍率は今年も10倍を超え、非常に難しい入試であった。